

「舞鶴市制 70 周年」

舞鶴市は飛鳥時代から明治時代まで「加佐」「田辺」と名称は変わるものの、ほぼ同じ地域でまとまってきました。明治の廃藩置県後から分割・合併が行われてきましたが、昭和 18 年 5 月に旧舞鶴市と東舞鶴市が合併しました。

終戦や引揚げの受け入れ、台風 13 号の大惨禍といった試練を乗り越え、今の舞鶴市の礎を築きあげてきました。市制 70 周年を迎え、これら先人が辿った足跡を資料やパネルから振り返り、これらを糧として、これからのふるさと舞鶴を考え、次世代へ引き継ぐ一助となればと考えます。

平成 25 年 6 月 1 日

舞鶴市郷土資料館

【舞鶴市誕生】

律令時代から「加佐郡」として一つであった私たちの地域は、江戸時代は「田辺藩」として政治的にもひとつにまとまっていた。明治になり、戸籍を整備するために大区小区制が敷かれたが、批判が大きく地方の実情にあわせて、古来の郡に沿う形で郡町村が設置されました。

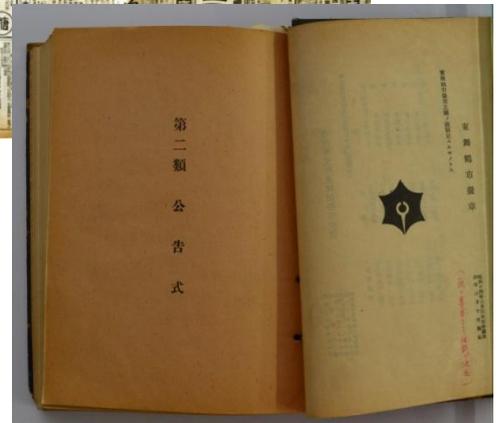
明治 22 年、全国で町村大合併が行われ、加佐郡内は城下町を母体とした舞鶴町と 24 ヶ村となりました。明治 34 年、鎮守府が設置され、東地域の人口が膨らみ、昭和 13 年には舞鶴市・東舞鶴市が誕生しました。やがて、軍部が「大舞鶴」の誕生を強く要請するようになり、遂に昭和 18 年 5 月 27 日に舞鶴市・東舞鶴市が合併しました。名称は舞鶴市となり、庁舎はその中間となる中舞鶴（今の中総合会館）に置かれました。これが、現在の舞鶴市制の第 1 歩です。この時の人口は 86,051 人と発表されていますが、実際は 13 万ともいわれています。



舞鶴町例規集



昭和 18 年
都市計画図

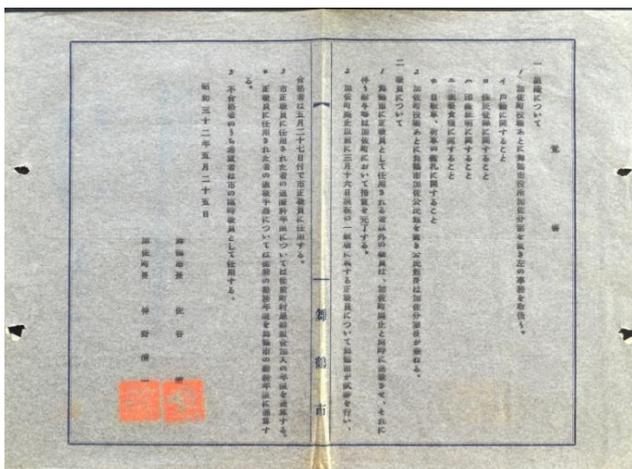
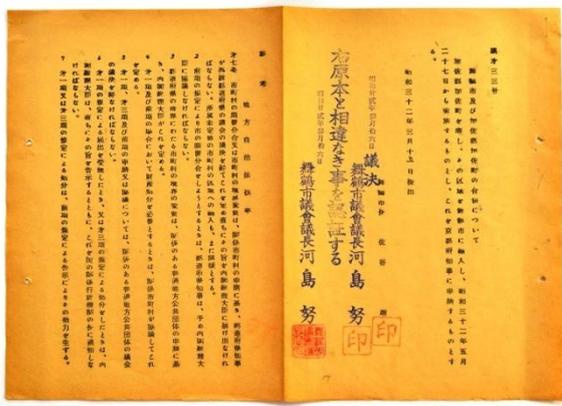
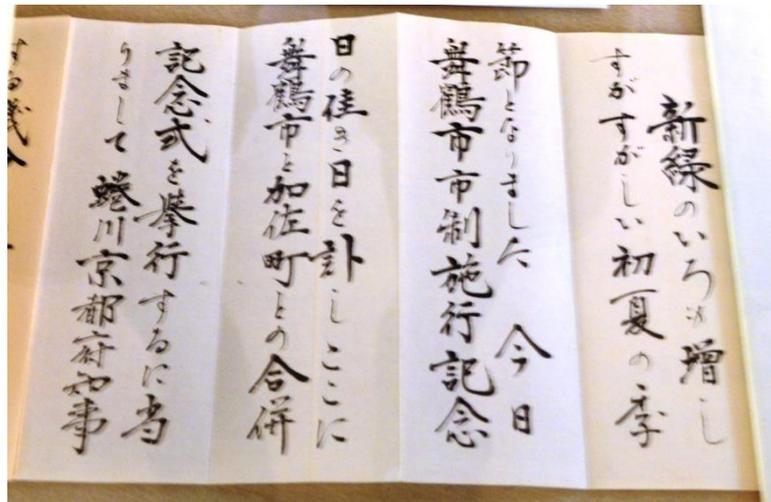


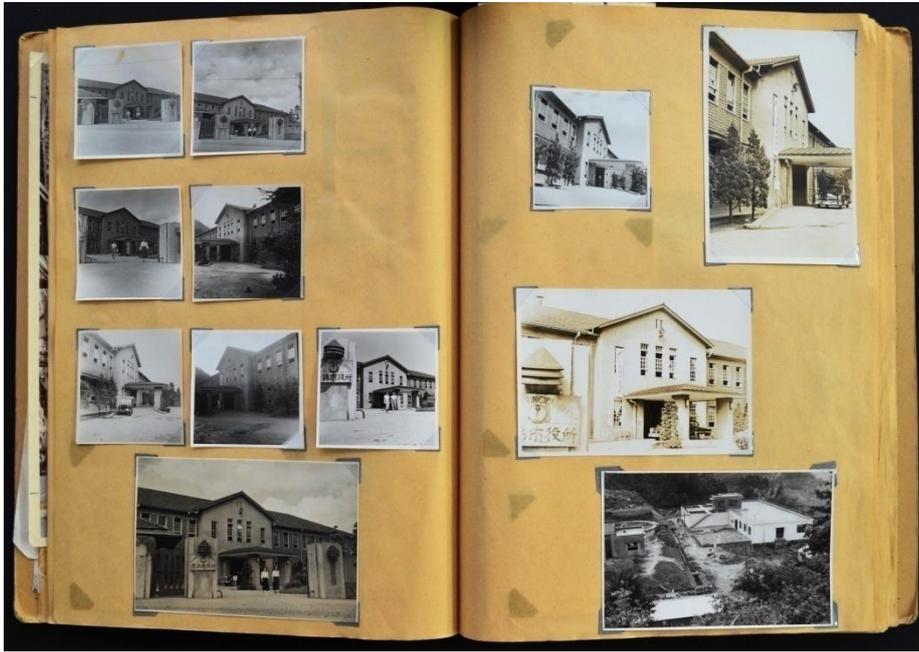
東舞鶴市例規集

【加佐地域（由良川筋）合併】

加佐地域は昭和 18 年の舞鶴市・東舞鶴市合併時に舞鶴市に編入される構想がありましたが、このときは実現しませんでした。昭和 17 年に京都府が国民統制を強化するために与謝地方事務所（宮津）と天田地方事務所（福知山）を設置しました。加佐郡として唯一残った由良川筋の 12 ヶ村は、北部 6 ヶ村が与謝地方事務所の管轄になり、南部 6 ヶ村が天田地方事務所の管轄となりました。昭和 24 年、財政難を乗り切るために京都府から加佐郡に合併するように要請があり、南部 6 ヶ村は大江町となりました。しかし、北部 6 ヶ村は学校の位置などで意見がまとまらず、由良村を除く 5 ヶ村が合併して昭和 30 年加佐町が誕生しました。舞鶴市編入の動きは加速し、昭和 32 年 5 月 27 日、正式に舞鶴市へ編入されました。この時に舞鶴市役所北田辺庁舎は廃止され、市役所が 2 ヶ所にあるという状態は解消されました。

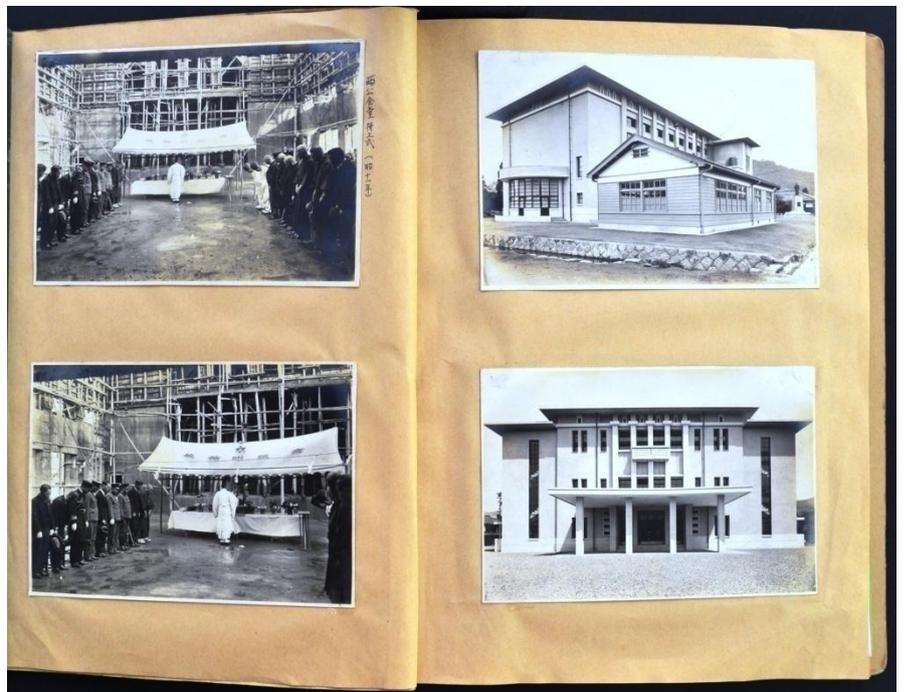
加佐町合併記念式典挨拶





舞鶴市役所
 (昭和 38 年
 現庁舎が建つ
 まで使われた)

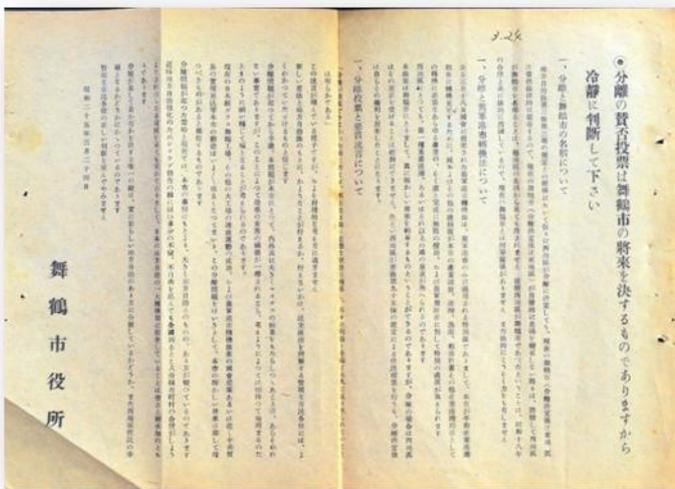
西公会堂
 (昭和 43 年から
 61 年まで西支所
 として使われた)



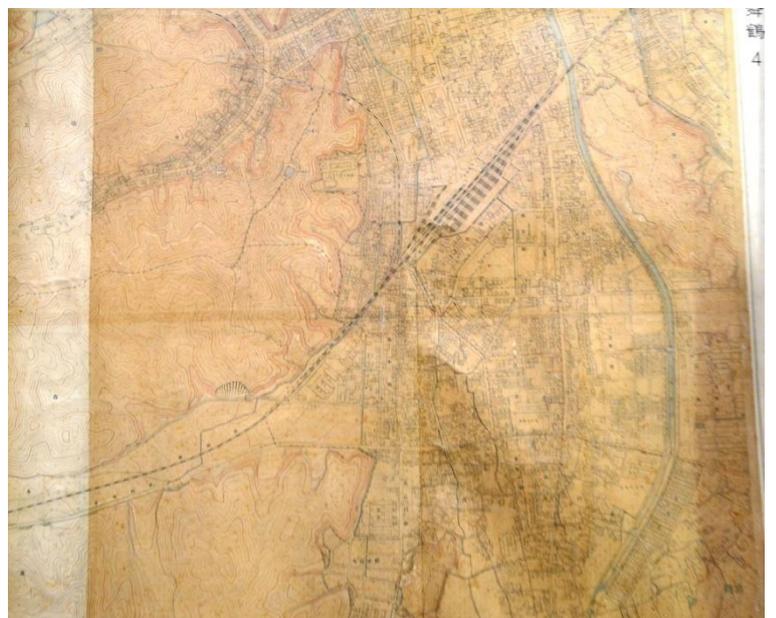
【東西分離問題】

戦後の昭和23年8月、戦時体制下で合併させられた自治体は住民投票で過半数が賛成すれば、元にもどせるとい法律が施行されました。それを受けて、昭和24年11月、西地区の有志から東西分離（舞鶴市区域変更届）が発議されました。市議会は分離に反対の立場をとり説得にあたりましたが、昭和25年3月26日に西地区の住民投票が行われました。投票率74.7%、有効投票数13,116票のうち、976票という僅差で分離賛成派が上回り、京都府に審議が移りました。京都府は審議の末、投票によって分離反対に決着しました。北近畿の港湾都市として発展するために、また、軍転法を利用するためにも分離して弱小の市になることは不利だという判断でした。

結果、庁舎を西地区・東地区に二分して設置することや、混乱の責任をとって柳田市長が退任することになりました。



昭和26年都市計画図
(西舞鶴駅付近)



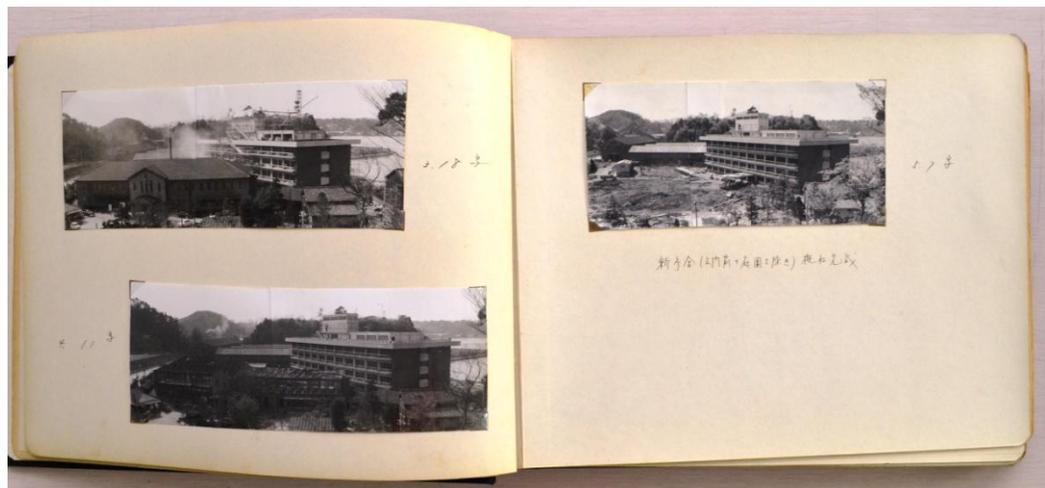
昭和26年都市計画図
(東舞鶴駅付近)

【市制 20 周年記念事業】

昭和 38 年(1963) (時事：日本国産連続 30 分テレビアニメ第 1 号『鉄腕アトム』放映開始。関西電力の黒部川第四発電所が完成。アメリカのケネディ大統領がダラスで暗殺される。力道山刺される。ボーリングブーム)

念願の新庁舎が完成しました。舞鶴市にとって市役所の位置は東西融合の歴史でもありました。昭和 32 年の加佐町合併以来、積み立ててきた新庁舎建設基金によって市制 20 周年とともに新庁舎開庁を祝いました。この頃は日本が高度経済成長期であり、東京では翌年開催される日本初のオリンピックに向けて盛り上がりました。舞鶴市でも、この頃 (S37・S38) に小学校の校舎が次々に新築されました。志楽・中舞鶴・大丹生・余内・池内・中筋小学校です。また、この 10 年間は、昭和 29 年以来財政再建団体となって、市民も苦しい思いをしましたので、この新庁舎完成は大きなよろこびでした。

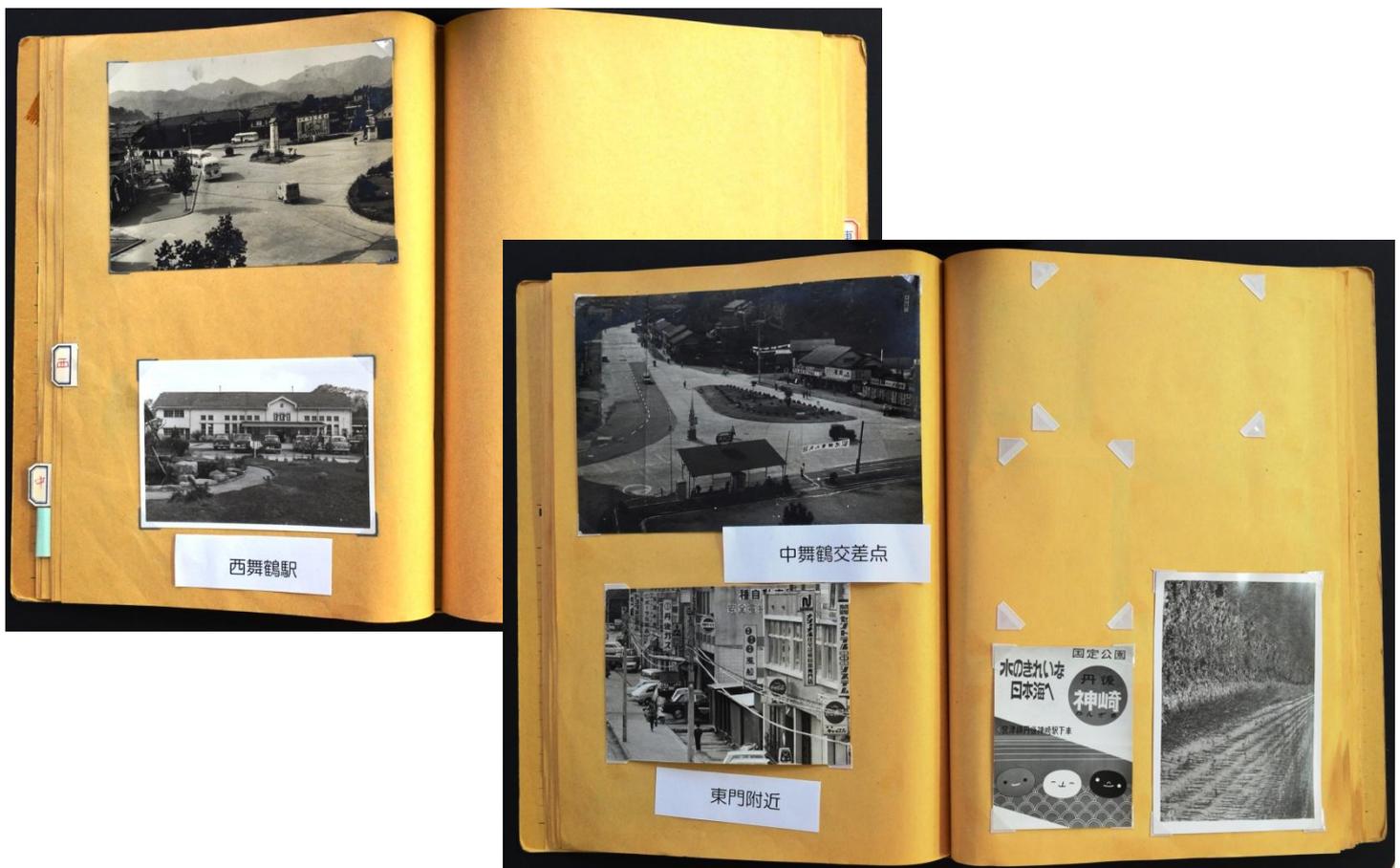
(予算総額 21 億円余、昭和 40 年の人口 96,641 人)



【市制 30 周年記念事業】

昭和 48 年（1973）（時事：浅間山噴火。オイルショック。関門橋開通。さらに、為替レート・1ドル=308 円の固定相場制から、変動相場制に移行。スタートは、1ドル=277 円。大関・輪島が第 54 代横綱に昇進。初の学生相撲出身横綱となる。日本赤軍によるドバイ日航機ハイジャック事件発生。アメリカが地球観測衛星『ランドサット 1 号』を打ち上げる。金大中事件。）

市制 30 周年を記念して「舞鶴市史」が刊行されました。この年にまず「史料編」が出され、平成 6 年「年表編」の刊行で全 7 巻の刊行が終了しました。戦後食べるのに必死だった時代を経て、文化的なものに余裕が生まれ始めたところです。この年は桑飼下遺跡や妙見山古墳の発掘や板ガラスとの公害防止協定締結、東体育館の完成、新相生橋の完成、倉梯第二小学校の建設などが記憶に残ります。（予算総額 96 億円余、人口 97,155 人）





夕潮橋と潮路通り建設予定地
昭和41年



小倉トンネル（府道舞鶴宮津線）開通
昭和47年

萬代橋復旧工事概要

京都府

路線名	国道二十七号線（大門通）
架橋地	舞鶴市宇浜地内
設計荷重	鋼示第一種（13吨自動車）
型式	鋼充腹ワイドアーチ
施工年度	昭和28年度至昭和30年度
橋長	30.14（支間29.00）
有効幅員	車道8.50 歩道2.70
橋台	井筒基礎鉄筋コンクリート橋台2基 井筒深17.00 内径2.20 外径3.00 4本
取付道路	延長82.00 幅員3.00 コンクリート舗装877.2
使用資材	セメント216吨 鋼材111吨 洗砂 305立方 洗砂利 610立方
使用労力	延 19,000人
総工費	22,008,488.00（内仮設費737,000.00）



4車線になる前の国道27号
（余部上地区） 昭和50年代前半



【市制40周年記念事業】

昭和58年（1983）（時事：田中元首相に実刑判決、日本海中部地震、三宅島大噴火、大韓航空機撃墜事件、千葉県浦安市に東京ディズニーランドが開園、ファミリーコンピュータが販売、NHKドラマ「おしん」人気）

市制40周年を記念して総合文化会館が落成しました。また市の木「ケヤキ」市の花「ツツジ」が制定されました。大浦中学校は36年間の歴史に幕を閉じ、大浦・朝来地区を校区とする若浦中学校が開校しました。

（予算総額334億円余、人口98,003人）



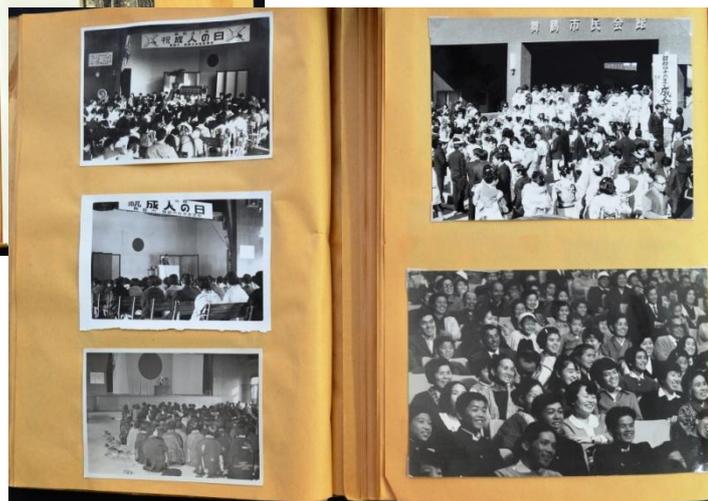
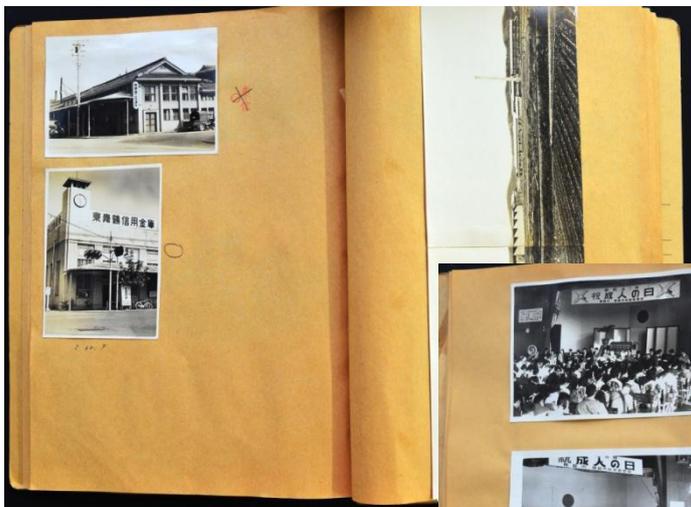
工事中の前島埠頭 昭和50年代

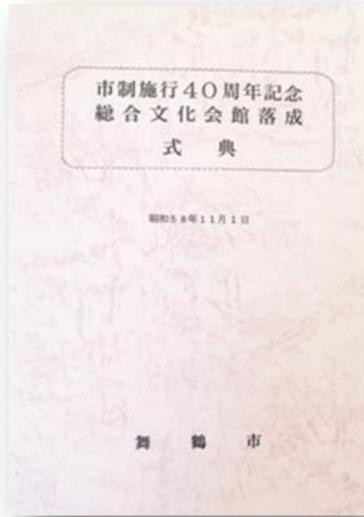


建部山から西港を望む
昭和61年



引揚記念館オープン 昭和63年





【市政 50 周年記念事業】

平成 5 年（1993）（時事：EU12 か国発足、皇太子と小和田雅子さんご成婚、細川護熙日本新党代表を第 79 代首相、屋久島・自神山地・法隆寺地域の仏教建造物・姫路城が世界遺産に決定）市制 50 周年を迎えました。記念事業として、赤れんが博物館のオープン、市政記念館、五老岳タワー建設、西駅前緑地整備、明倫小学校築地塀整備（歴史的町並整備）、国際バイアスロン大会の開催など多彩な催しが行われました。

（予算総額 549 億円余、人口 94,878 人）



舞鶴自動車路が舞鶴西インタまで
開通 平成 3 年



田辺城城門の竣工式 平成 4 年



五老スカイタワー竣工 平成 7 年

【市政 60 周年記念事業】

平成 15 年（2003）（時事：イラク戦争開始、日本郵政公社発足、住民基本台帳ネットワーク本格稼働、9/26 北海道で十勝沖地震発生。死者行方不明者 2 人、849 人が負傷、米国（BSE）感染を発表。米国産牛肉の輸入停止。）

市制 60 周年には京阪神との交通網の整備が実を結び、JR 小浜線が電化開業、舞鶴若狭自動車道舞鶴東 IC～小浜西 IC 間開通などのインフラ整備や西市民プラザがオープンしました。（予算総額 721 億円余、人口 93,007 人）



舞鶴線電化出発式 平成 11 年



大連定期航路就航 平成 11 年

【市制 70 周年記念事業】

昭和 60 年をピークに人口は減り続けています。しかし、交通網は整備され、平成 26 年には阪神へも北陸へも高速道路が開通します。また、戦後一貫して港湾都市として整備発展してきた舞鶴港には、今年豪華クルーズ船も停泊します。市制 70 周年記念事業として新たなイメージソングの制作や赤れんがマラソンなどが計画されています。平成 23 年（2011）新たに組まれた総合計画では、基本構想としてめざす都市像は“東アジアに躍動する国際港湾・交流都市 舞鶴”まちづくりの基本目標は“子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまち・舞鶴”の実現です。“市民と行政とのチームワークで夢を実現”しましょう。（予算総額 645 億円、人口 86,001 人）



大庄屋上野家がオープン
平成17年5月



舞鶴ふるるファームがオープン
平成18年7月

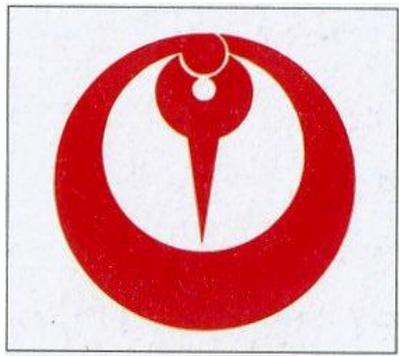


【旧舞鶴市旗】

明治30年舞鶴町の町徽章として制定されたもので、旧舞鶴市はこの徽章をそのまま市徽章として引継ぎました。

【舞鶴市旗】

市徽章は一般公募され昭和19年1月20日に制定されました。



【東舞鶴市旗】

【丹後国絵図（館蔵）】

これは、天保年間（1830～1843）に幕府へ提出された国絵図の写しです。江戸幕府は正保（1644～1703）、天保年間に国絵図を制作しています。正保・元禄の国絵図は完成した絵図を提出させましたが、天保の時は元禄の絵図の写しを細長く切ったものを係りの藩に渡し、これに修正部分の付箋を付けて提出させ、これをもとに幕府が国絵図を制作しました。そこで、各藩には完成した天保の国絵図の写しは残っていません。今回展示したものは、明治初年頃田辺藩土野村益之助が、この付箋部分を本紙に書き込む形で写したものです。



【加佐郡】

加佐という地名は白雉2年（651）に書かれたものが最も古いとされています。大宝律令が制定された701年以前から、この地域を加佐と呼んでいたことは間違いのないでしょう。

元和8年（1622）京極高三によって田辺藩が立藩されるとその領域は加佐郡をそのまま引き継ぐものでした。江戸時代は藩単位での施策が多く有り、飢饉では藩単位で津留（物資の流通を止めること）が行われましたし、享保の一揆は全藩で戦われました。

近代になって、加佐郡は地域名称程度となりましたが、今振り返ってみると、律令以来ひとつにまとまってきたのは福知山市（天田郡）と舞鶴市（加佐郡）ぐらいです。舞鶴湾を核にしてまとまってきた舞鶴をもう一度見直してみてもいいかもしれません。

【郡制】

古代の律令制では、地方は〈国一郡一里〉の行政区画に分かれていました。中世になってもこの時の郡が使われつづけ、近世になると江戸幕府は郡の復活に腐心しました。しかし、明治新政府は戸籍事務を円滑に行うために、従来の村を無視した大区小区制を敷き大きな反発をうけました。明治 10 年、郡が公認され、明治 23 年に郡制が復活しました。ただ、この時の郡制は微税権を持たず、国の命令を市町村に伝えることと、町村を監督することが大きな役目でしたので、実態が伴わず大正 10 年廃止されました。これ以降、郡は行政単位ではなく地域を表す名称となりました。

舞鶴市域が現行になるまで		
西暦	和暦	事項
651	白雉2	最も古い笠郡の表記
713	和銅6	丹波から丹後が分割され、この時加佐郡も分割される
1622	元和8	田辺藩成立
1869	明治2	舞鶴藩に改名
1872	明治4	7月廃藩置県により舞鶴県となる
	明治4	11月豊岡県加佐郡となる
1873	明治5	大・小区制により郡内を第14大区(西部)第15大区(東部)が成立
1877	明治9	8月京都府加佐郡となり、大区制は廃止される
1880	明治12	加佐郡役所が北田辺(市民会館のある場所)に置かれる
1890	明治22	町村制施行郡内1町24ヶ村となる。(舞鶴町のはじまり、庁舎は明倫小学校内)
1900	明治32	行政組織として郡制施行
1903	明治35	余部町設置
1907	明治39	新舞鶴町設置(志楽村・倉梯村の一部編入)
1919	大正8	余部町、中舞鶴町に町名変更
1923	大正12	郡制廃止
1928	昭和3	丸八江村と東雲村が合併して八雲村ができる
1935	昭和10	新舞鶴町役場が完成(マイコムの場所)
1936	昭和11	舞鶴町に四所・中筋・高野・余内・池内村編入(庁舎は郡役所跡に移転)
1938	昭和13	8月1日舞鶴町域をもって舞鶴市設置、加佐郡から分離
		8月1日中舞鶴町・新舞鶴町・倉梯・与保呂・志楽村が合併して東舞鶴市を設置、加佐郡から分離
1942	昭和17	8月1日東舞鶴市に朝来・東大浦・西大浦村が編入
1943	昭和18	5月27日舞鶴市・東舞鶴市が合併して舞鶴市設置
1948	昭和23	市役所を余部から北吸(旧海軍軍需部本庁舎、現庁舎の地)に移転
1951	昭和26	市役所を北吸所在庁舎と北田辺所在庁舎に移転。河守町に河守上・河西・河東・有路上・有路下村が編入して大江町設置
1955	昭和30	岡田上・中・下・神崎・八雲5ヶ村が合併して加佐町を設置
1956	昭和31	由良村が宮津市に編入
1957	昭和32	5月27日加佐町が舞鶴市に編入、現在の市域となる。市役所本庁舎を現在地とする。

野田笛浦（のだ てきほ）（1799～1859）

江戸時代末期の儒者で田辺藩家老。寛政 11 年（1799）田辺に生まれ、13 歳で江戸に遊学しました。幕府の昌平坂学問所で学び、27 歳のときには漂着した清の得泰号に通訳として乗り込み、その名を全国に馳せました。その後、江戸や京都・大坂で活躍しましたが、51 歳で藩主である牧野節成の命で田辺に帰国して藩校「明倫斎」の改革や、海岸防衛のため沿岸に砲台のお台場を築くなど藩政に力を発揮しました。安政 4 年に 58 歳で家老となり、安政 6 年（1859）に 60 歳で亡くなりました。この漢詩は、笛ヶ浦と呼ばれた舞鶴湾の風景をこよなく愛した笛浦が「天台の桜」と「千歳の桃」の風景を詠んだものです。尚、漢詩の解釈は公文公雄氏によります。



天台山観桜

東風各処以花鳴 春風がいたるところで花吹雪をともなつて鳴り

東風各処に花を以つて鳴り

就中台嶺最有名 中でも天台山は最も名高い

就中 台嶺（天台の嶺）最も名あり

殿峰墨水不敢当 御殿山と隅田川の景観は比べるのも野暮なはなし

殿峰（御殿山）墨水（墨田川）敢えて当たわず

伯仲之間見嵐芳 優劣付けがたい美しさの中、吹く山風は、えも言わず芳しい

伯仲之間（匹敵する）に山風の芳しさを見る

我行取路従山麓 歩を進めるにつれて路は山麓に沿って伸び

我行けば路は取つて、山麓に従い

進自山腰至山腹 進み行けば山の腰から山腹に出る

山腰より進み山腹に至る

俯仰乾坤春一色 上を見ても下を見ても天地は春一色

俯仰すれば乾坤（天地）春一色

皎々白於白雪白 花のあやしげな純白は白雪よりも濃艶

皎々として白雪の白より白し

对花不知日向夕 花に向かえば日の暮れるのも忘れてしまい

花に対えば知らず日夕に向うを

僧房漸鎖三十六 僧房三十六の門が名残惜しげに閉ざされていく

僧房漸く鎖す三十六

暮鐘風冷且歸去 暮れ六ツの鐘の音とともに吹く風が急にひんやりして、やむ

暮鐘に風冷たければ を得ず腰をあげることにする

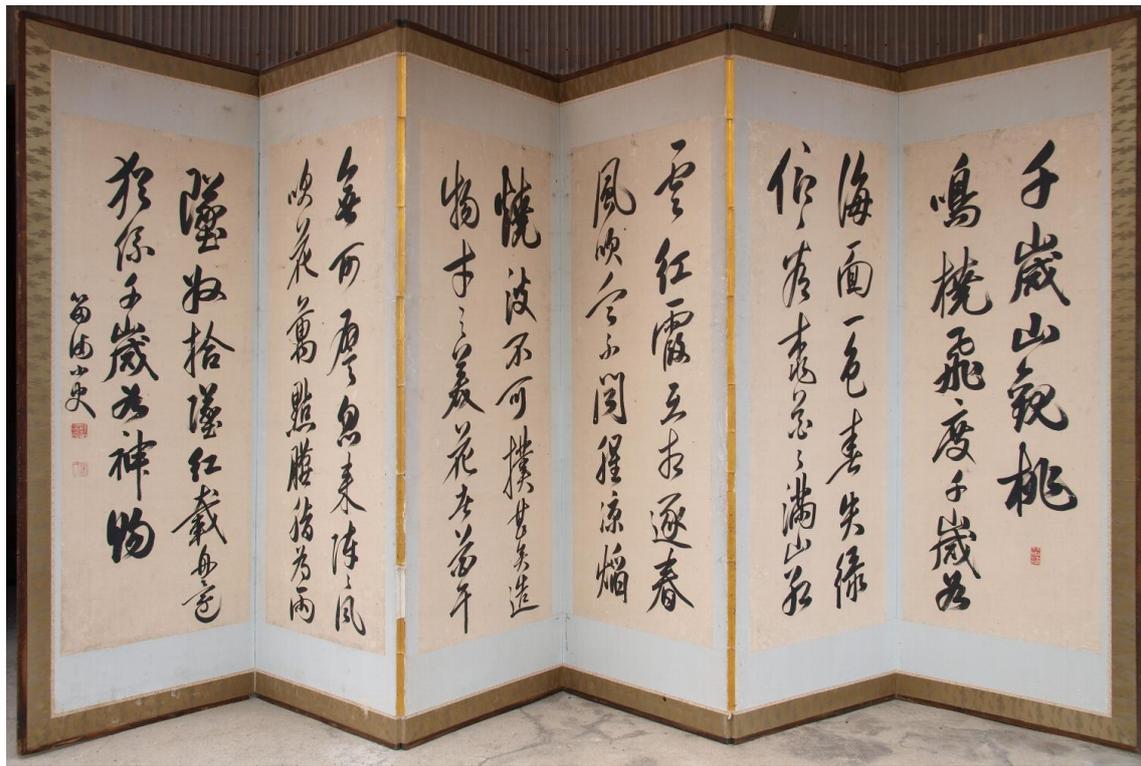
且歸去せん

落花狼藉欲無路 だが、所かまわぬ夥しい落花でどこが道なのか分からなくな

落花狼藉して路無か

らんと欲す

りそうだ



千歳山観桃

鳴櫓飛度千歳谷

鳴きて櫓飛し千歳谷を渡る

海面一色春失緑

海面一面にして春の緑を失う

仰看桃花之満山

仰いで桃花の山に満つるを看れば

紅雲紅霞在相逐

紅雲紅霞相逐うて在り

春風吹令不閃猩

春風令して吹けば猩（紅色）閃かず

涼焰焼波不可撲

涼焰（冷たいもや）波を焼

甚異造物寸之美

甚だ異なるれり、造物の寸之美（わずかばかりの美しさ）

花者花午無所譬

花は花に午りて譬ふる所なし

忽来陣々風吹花

忽として来たる陣々の風

万点臙脂為両墜

（盛んに吹く風）花に吹けば

收拾墜紅載舟還

万点の臙脂（べに）両び墜ちたり

猶係千歳谷神賜

墜ちし紅を收拾し舟に載せて還れば

猶、千歳谷に係わる神の賜のごとし

鳥たちは鳴きながらわざわざ下にカーブして、千歳谷を渡る

千歳山の映る海面は紅一色で春の緑が全くない

仰いで桃花が山いっぱい咲き乱れるのを眺めると

紅雲と紅霞とが互いに競い合っているように見える

春風が命ずるように吹けば花の赤はひらめかず

冷たいもやが日に映じて波を赤く染めると波うつこともできなくなる

それは、造物主が作ったささやかな美とはひどく違って見える

花は花に交錯し合ってたたとえばもう美しく美しい

ふいにやってきた風が、ひとしきりと続くさま

万点の紅が一斉に落ちる

落ちた紅を拾い集め、舟に載せて還ると

まるで千歳谷にいらっしやる神からのいただきもののようである